（様式６－Ａ）Ａ．雑誌発表論文による学位申請の場合

熊　坂　百　香　氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題　目　Computed Tomography Characteristics of Ruptured Corpus Luteum: Does Prior Coitus Modify Findings?
（黄体出血のCT所見：性交渉は画像所見に影響を与えるか？）
The KITAKANTO Medical Journal 70: 187-192, 2020
Yuka Kumasaka, Jun Aoki, Makoto Amanuma, Masahiro Itoh, Katsuto Oota, Soma Kumasaka, Yoshito Tsushima

論文の要旨及び判定理由

黄体出血は生殖年齢の女性における急性腹症の原因の一つとして重要である。従来、黄体出血は性交渉後の発症が多く、機械的刺激が出血の要因の一つと考えられているが、性交渉の有無がCT所見に与える影響については明らかにされていない。本研究の目的は、黄体出血のCT所見について検討すると同時に、性交渉の有無が画像所見に与える影響について検討することである。

対象としたのは2010年から2015年までに、群馬中央総合病院にて急性発症の下腹部/骨盤部痛のためにCT検査が行われ、黄体出血と診断された患者である。以下の基準の全てを満たす症例を最終的に黄体出血と定義した。１）CTにて壁肥厚を伴う付属器嚢胞性腫瘤がある、２）ダグラス窩に高濃度腹水貯留（≧20 H.U.）がある、３）腸炎および虫垂炎、憩室炎がCT所見より否定される、４）妊娠が否定される、５）慢性下腹部痛の既往がない、６）２週間以内に症状が消失する。

撮像は64列マルチスライスCTにて上腹部から骨盤下部まで行った。禁忌でない限り単純CT撮像後に造影CTを撮像した。画像診断は２名の放射線科医による合議により行った。CT画像において以下の点に注目した。１）付属器嚢胞性腫瘤の位置（左右）、最大径（mm）、形状（円形/虚脱変形）、内部のCT値（H.U.）、壁の厚さ（mm）、壁の造影効果（軽度/高度）、２）腹水の量（少量/多量）、CT値（H.U.）。

下腹部痛発症前2日以内の性交渉の有無により、患者を性交渉あり群となし群に分類した。

適格基準を満たした症例は18症例であり、性交渉あり群となし群はそれぞれ9例であった。性交渉あり群は初診時に6例が産婦人科を受診しており、全例が経腟超音波検査を実施され、8例で付属器嚢胞性腫瘤が指摘されていた。性交渉なし群では産婦人科受診は1例のみであり、経腟超音波検査を実施されたのが3例、経腹超音波検査が6例であり、付属器嚢胞性腫瘤の指摘は4例であった。

性交渉あり群は性交渉なし群と比較して大きな嚢胞径（38.8 vs 23.5 mm, $p = 0.005$）、高い腹水CT値（41 vs 25 H.U., $p = 0.017$）、多量の腹水（$p = 0.015$）を示した。これらの結果は、性交渉による外部刺激により血管が破綻もしくは血管透過性が亢進し、出血量が多くなったことによると考えられた。嚢胞の内部濃度や嚢胞の形状には差を認めなかった。血液所見には差がなかった。

この研究結果は性交渉の有無が黄体出血のCT所見に与える影響に関する新たな知見と認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（審査年月日）令和2年8月19日

審査委員

主査　　群馬大学教授（医学系研究科）
腫瘍放射線学分野担任　　大　野　達　也　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
産科婦人科学分野担任　　岩　瀬　　明　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
救急医学分野担任　　大　嶋　清　宏　　印

最終試験の結果の要旨

若年女性の急性腹症の画像診断についておよび腹腔内出血の画像診断について

試問し満足すべき解答を得た。

（試験年月日）令和2年8月19日

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
放射線診断核医学分野担任　　対馬　義人　　印

群馬大学教授（医学系研究科）
腫瘍放射線学分野担任　　大野　達也　　印

試験科目

主専攻分野　　放射線診断核医学　　A

副専攻分野　　腫瘍放射線学　　A